町制施行 80 周年記念

しまもとの記録と記憶

昭和から平成 そして令和へ

発　行　島本町
　　島本町教育委員会
発行日　令和２年１２月

昭和15年～34年
1940－1959

島本町の誕生
～村から町へ～

昭和15年4月1日、島本村から島本町へと生まれ変わりました。

記憶

明治22年（1889）に7か村が合併して「島本村」が誕生しました（当時の人口は約2千6百人）。

大正12年（1923）に寿屋山崎工場（現：サントリー山崎蒸溜所）、同15年（1926）に大日本紡績山崎絹糸工場（現：大阪染工）が建設され、多くの労働者が流入し、人口が増加しました。

島本村誕生から半世紀を経た昭和15年（1940）、町制を施行し「島本町」が誕生しました（当時の人口は約6千人、役場職員は町長を含め12人）。

その後、太平洋戦争に突入し敗戦、混乱の時代を迎えます。食料難の中、農地改革、新憲法の施行、教育改革などが行われ、町の立て直しが進められました。

昭和27年（1952）には町営住宅の建設が開始され、生活環境の整備に取り組んでいきました。同32年（1957）には町営プールが完成、真夏に子どもたちの元気な声が響くようになりました。

記録

大日本紡績山崎絹糸工場（現：大阪染工）

寿屋山崎工場（現：サントリー山崎蒸溜所）

金属供出された楠公父子別れの銅像

岩谷採石場（現：第二中学校北側）

町営プール開き

町立小学校（現：第一小学校）

御所ヶ池の釣堀風景

昭和15年	1940	島本町が誕生（4月1日町制施行） 【人口 6,056 人／ 1,023 世帯】 町制施行記念祝賀式を開催
昭和16年	1941	島本尋常高等小学校を島本国民学校に改称（現：第一小学校） 史跡桜井駅跡に記念館「麗天館」（現：町立歴史文化資料館）が完成 太平洋戦争が始まる
昭和17年	1942	旧役場前（現：第一小学校体育館付近）の「楠公父子別れの銅像」と国民学校の「二宮尊徳銅像」を金属供出
昭和20年	1945	大沢に電灯がつく 大阪水上隣保館が戦災のため、大阪市内から東大寺に移転 終戦
昭和21年	1946	山崎保育園が開園（大阪水上隣保館内）
昭和22年	1947	国民学校が町立小学校に名称変更（現：第一小学校） 町立中学校が開校（現：第一中学校、当初は小学校の教室を使用） 島本町警察（自治体警察）ができる（東大寺）
昭和23年	1948	京阪神急行電鉄が「桜井ノ駅」駅を「水無瀬」駅と改称 島本町農業協同組合創立
昭和24年	1949	町立中学校の新校舎が完成し、現在地に移転
昭和25年	1950	町制施行 10 周年【人口 8,160 人／ 1,246 世帯】 ジェーン台風（台風第 28 号）で被害を受ける
昭和26年	1951	大阪水上隣保館が東大寺から山崎に移る
昭和27年	1952	町教育委員会が発足 町営住宅の建設が始まる（半坂住宅、岸ノ下住宅など） 「島本町報」を発行（昭和 41 年「広報しまもと」に名称変更）
昭和28年	1953	町立保育所（旧：第一保育所）が東大寺で開所 水無瀬橋完成 島本町警察を廃止 水無瀬神宮前に平和塔建立（現在はふれあいセンターに移設） 府営江川住宅の建設が始まる
昭和32年	1957	町営プール完成 水無瀬駐在所完成
昭和33年	1958	上水道布設事業が大阪府知事から認可される
昭和34年	1959	町営上水道工事起工、一部供用開始 （山崎・高浜・水無瀬・広瀬・東大寺の一部 300 戸）

昭和35年～54年
1960－1979

島本町の高度成長
～町の発展と基盤整備～

様々な企業が進出し、住みよく明るいまちづくりが進められました。

記憶

1960～70年代、名神高速道路や東海道新幹線が開通し、高度経済成長を背景に、町内への大企業の進出が進み、多くの工場や研究所などが建設されました。進出企業側にとっての大きな魅力は、交通輸送の便や豊富な地下水による工場用水が確保できることでした。

また、団地や戸建住宅の開発が各地区で進み、商業施設も建設され、人口は急増し、9千人台だった人口は約20年間で1万5千人増えて、2万4千人台となりました。

山崎の工場地帯のほかは田園が広がる農村だった本町は、都市近郊のベッドタウンとして急速に変化し、発展していきました。

この間、急速な人口増加に対応して道路や上下水道、小・中学校、保育所、幼稚園、住民センターなどの基盤整備が進められました。

記録

旧町役場（現：第一小学校体育館付近）

東大寺 畑の風景

山崎の渡し（～石清水離宮八幡宮へ）

ニチレ・バークシャー㈱（現：府立島本高等高校）

エースコック㈱大阪工場（現：シャルマンコーボ）

ユニチカ山崎女子バスケットボール部

高架化前の阪急水無瀬駅

住民センター池埋式

昭和35年	1960	町制施行 20 周年【人口 9,173 人／ 1,930 世帯】 積水化学工業㈱水無瀬研究所ができる 島本町社会福祉協議会が発足 岩谷採石場のトロッコ廃止
昭和37年	1962	「山崎の渡し」廃止、島本町商工会が結成 世界長㈱が水無瀬にできる（現：メゾン水無瀬）
昭和38年	1963	ニチレ･バークシャー㈱が桜井にできる（現：府立島本高等学校） 町立小学校で完全給食開始 町立第二保育所が江川で開所 名神高速道路（栗東～尼崎）開通 上水道工事竣工、阪急水無瀬駅の高架化工事完成
昭和39年	1964	町立第二小学校が開校 第１回町文化祭開催、東海道新幹線開通 住友特殊金属㈱山崎製作所が江川にできる（現：日立金属㈱山崎製作所）
昭和40年	1965	エースコック㈱大阪工場が桜井にできる（現：シャルマンコーボ） 島本センターが開業 水無瀬郵便局ができる
昭和42年	1967	第１回町体育祭開催（現：町民スポーツ祭） 豪雨被害で災害救助法適用
昭和43年	1968	町章を制定 小野薬品工業㈱中央研究所が桜井にできる
昭和44年	1969	大阪府立青年の家が桜井に建ち、麗天館は講堂として使用 山崎幼稚園が開園
昭和45年	1970	町制施行 30 周年【人口 16,177 人／ 3,900 世帯】 町立老人福祉センター「やすらぎ荘」ができる 町消防本部を設置（広瀬）
昭和46年	1971	町立幼稚園が桜井で開園（現：第一幼稚園） トッパンムーア㈱大阪工場が桜井にできる（現：トッパン･フォームズ関西）
昭和47年	1972	町福祉事務所を設置、清掃工場・大藪浄水場が完成 町の木「くすのき」、町の花「やまぶき」を制定
昭和48年	1973	住民センターが開館（役場･中央公民館･住民ホール） 町立第三小学校が開校、町立第三保育所が青葉で開所
昭和49年	1974	府立島本高等学校が開校 町立キャンプ場が大沢にできる
昭和50年	1975	下水道工事に着手 町立第二幼稚園が東大寺で開園 都市計画道路水無瀬鶴ヶ池線が開通 『島本町史』を発行
昭和51年	1976	万代百貨店水無瀬店が開店（現：万代水無瀬店） ユニチカ山崎女子バスケットボール部７選手がモントリオール五輪出場 町立第四保育所が桜井で開所
昭和52年	1977	町立第二中学校が開校 ダイエー水無瀬店が開店（現：グルメシティ水無瀬店）
昭和53年	1978	町立解放会館ができる（現：町立人権文化センター） 町立図書館が広瀬にできる（現：教育センター） 第１回島本夏まつり開催 消防新庁舎が若山台に完成 府立島本高等学校が全国高校ラグビー大会に初出場（S61.H2.H8 にも出場）

昭和から平成へ
～ふるさと島本づくり～

心の豊かさが求められ、自然と歴史を生かしたまちづくりが進められました。

昭和55年～平成11年
1980－1999

記憶

1980～90年代、高度経済成長期からの急激な人口増加に伴う基盤整備が一段落し、学校、体育館、ふれあいセンター、水無瀬駅前交通広場や道路、下水道など、現在まで続く公共施設や都市基盤がほぼそろいました。

急増していた人口は、昭和62年（1987）に3万人に到達し、以降は横ばいに転じました。

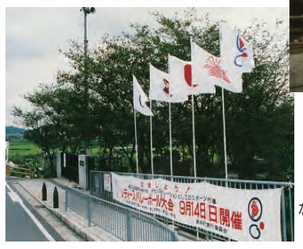
「平成」の時代が始まり、誕生後半世紀を迎えた町では21世紀を展望した「ふるさと島本づくり」として、「水」と「緑」と「歴史」をテーマに掲げ、水無瀬川流域とその周辺の歴史的資源のネットワーク化や水辺環境の整備など、豊かな自然と歴史を生かしたまちづくりを進めました。

また、パーソナルコンピュータが普及し、これからの情報化社会に対応していくために、学校教育の中にも取り入れられていきました。

記録

町制施行50周年記念のパレード

ユニチカのグラウンド
（現：ユニハイム山崎）



なみはや国体
「レディースバレーボール大会」開催

阪急水無瀬駅前交通広場（国道側、山側）の整備

府立青年の家
（現：JR「島本」駅東側）

昭和 55 年	1980	町制施行 40 周年 【人口 24,611 人 /7,188 世帯】 町立第二保育所が移転（江川→広瀬）
昭和 56 年	1981	町立体育館ができる 町立第四小学校が開校
昭和 57 年	1982	町民憲章を制定
昭和 58 年	1983	第１回農業祭開催
昭和 59 年	1984	『郷土かるた』が完成 情報公開制度を制定、第１回福祉大会開催 大薮浄水場に「蘆刈コーナー」開設 町立第一小学校木造校舎を取り壊す
昭和 60 年	1985	商工会館ができる 水無瀬神宮の「離宮の水」が名水百選に選ばれる 第１回ＹＹ（わいわい）ワールド開催（平成 29 年 第 33 回で終了）
昭和 62 年	1987	島本音頭ができる 人口３万人到達
昭和 63 年	1988	史跡案内冊子『史跡をたずねて』及び『史跡マップ』を発行
平成　元 年 （昭和 64 年）	1989	水無瀬駅前交通広場（国道側）完成 若山神社が「府みどりの百選」及び「府自然環境保全区域」の指定を受ける
平成　2 年	1990	町制施行 50 周年【人口 30,143 人 /9,375 世帯】 町立第三保育所が閉所 歴史案内冊子『わが町島本　目で見る歴史』を発行 公共下水道の一部供用開始 「島本水の文化園構想」がまとまる 国際花と緑の博覧会で「島本の日」開催（町の紹介展示や演奏）
平成　3 年	1991	特別養護老人ホーム「弥栄の郷」ができる
平成　4 年	1992	シルバー人材センター開設、町立やまぶき園を青葉に移転開設 島本町農業協同組合が高槻市農業協同組合と合併
平成　5 年	1993	名神高速道路梶原トンネル開通
平成　6 年	1994	阪急水無瀬駅前交通広場（山側）完成 町立第一幼稚園が移転（桜井→青葉） 大阪北生活協同組合「コープ島本」開店
平成　7 年	1995	阪神淡路大震災発生 名神高速道路拡幅に伴い、待宵小侍従の墓・顕彰碑を移設 老人保健施設「若山荘」ができる
平成　8 年	1996	水道部庁舎完成 ふれあいセンターが開館（町立図書館が広瀬から移転）
平成　9 年	1997	おおさか環状自然歩道三島地区開通 なみはや国体「レディースバレーボール大会」を町内で開催 教育センター開設
平成 10 年	1998	 名神高速道路天王山トンネル開通 府営水道（高度浄水処理）を一部導入
平成 11 年	1999	高槻島本ケーブルテレビが放映開始

平成から令和へ
～新たな時代～

持続可能なまちづくりをめざして、これからも進み続けていきます。

平成12年
～令和2年
2000－2020

記憶

21世紀に入り、情報通信技術が目覚ましく発達する一方、大規模な自然災害が頻発し、安全への意識が高まり、人々のつながりや、支え合いの大切さが再認識されています。

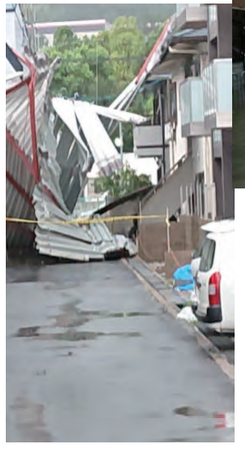
平成20年（2008）に新たな町の玄関口として、JR「島本」駅が開業し、阪急・JR双方からのアクセスが可能となり、交通の利便性はさらに高まりました。少子高齢化の進行により、わが国は人口減少社会を迎えていますが、本町では大型マンションなどの住宅開発が進み、現在の人口は町制施行以来最多を更新しています。一方で、子育て世代の増加や、さらなる高齢化への対応、公共施設の老朽化対策、自然災害や感染症への対応などが求められています。

新たな「令和」の時代を迎え、今後もまちづくりの諸課題や社会の変化に対応し、まちの活力維持を図りながら、誰もが住み良いまちづくりを進めていくことが必要です。

記録

ＪＲ「島本」駅の開業

町立歴史文化資料館の開館



様々な自然災害に見舞われる

平成 12 年	2000	町制施行 60 周年 【人口 30,629 人／ 11,296 世帯】
平成 13 年	2001	町ホームページを開設 町立第一保育所が閉所 大阪府立青年の家が廃止される
平成 14 年	2002	町立小中学校で完全週５日制実施
平成 15 年	2003	大山崎インターチェンジ開業 水無瀬川緑地公園が開園、町営緑地公園住宅ができる
平成 16 年	2004	史跡桜井駅跡の楠公子別れの石像を更新 麗天館（現：町立歴史文化資料館）の土地・建物が、大阪府から無償譲渡される（史跡桜井駅跡は平成 20 年）
平成 18 年	2006	地域包括支援センターを設置
平成 20 年	2008	ＪＲ「島本」駅開業 町立歴史文化資料館が開館 文化財保護条例制定
平成 21 年	2009	文化財保護条例による町指定文化財第１号を指定
平成 22 年	2010	町制施行 70 周年【人口 29,443 人／ 11,910 世帯】 まちづくり基本条例を制定
平成 23 年	2011	阪急水無瀬駅バリアフリー化工事完成
平成 24 年	2012	豪雨により町内で浸水被害
平成 25 年	2013	住民ホールを廃止
平成 26 年	2014	町立プールを廃止（旧：町営プール）
平成 27 年	2015	保育所「高浜学園」開園
平成 28 年	2016	小規模保育事業所「RIC ホープ島本保育園」開園
平成 29 年	2017	 ウイスキーが結ぶ縁で、バーボンの産地である米国フランクフォート市と姉妹都市提携調印 マスコットキャラクター「みづまろくん」の誕生 町立中学校で完全給食開始 北摂７市３町での図書館広域利用始まる 高槻インターチェンジ開業 小規模保育事業所「ぬくもりのおうち保育島本園」開園
平成 30 年	2018	大阪府北部地震、西日本豪雨、台風第 21 号により被害
平成 31 年 （令和元年）	2019	町立やまぶき園が閉園、障害者地域生活支援拠点施設が開設 町立キャンプ場を廃止 町立第二幼稚園が閉園 小規模保育事業所「ぬくもりのおうち保育若山台園」「るりの詩保育園」が開所、保育所「RIC ホープ水無瀬保育園」が開園
令和　2 年	2020	町制施行 80 周年【人口 31,774 人／ 13,678 世帯】 大阪青凌中学校・高等学校が高槻市より移転開校（若山台） 新型コロナウイルス感染症の流行

歴史をたどる

原始・古代

島本地域における人々の痕跡は旧石器時代にさかのぼり、縄文・弥生時代になると竪穴式建物跡が確認され、集落が形成されたと思われます。

飛鳥・奈良時代、民衆を救うため各地を巡った僧・**行基**は、島本付近にも足跡を残し、山崎橋をかけたり、西八王子社（現・若山神社）西観音寺（現・椎尾神社）、勝幡寺、（旧）釈恩寺などを創建したとの伝承が残っています。この頃、**鈴谷瓦窯**（山崎四丁目付近）では瓦が製造され、昭和29年の宅地造成工事の際、7世紀末から8世紀初頭の瓦が見つかっています。

奈良時代、水無瀬荘（東大寺三丁目付近）が**聖武天皇**の勅命により東大寺領（荘園）となりました。荘園の様子は、正倉院に伝わる日本最古級の絵図のひとつ「**摂津職嶋上郡水無瀬荘図**」に描かれています。

摂津職嶋上郡水無瀬荘図（複製 町立歴史文化資料館 所蔵）

南北朝時代

『**太平記**』によると、※延元元年（1336）、九州から東上する**足利尊氏**の大軍を迎え撃つため、京から兵庫へ向かった**楠木正成**が、途中、桜井の宿で子の**正行**に遺訓を残し、河内に帰らせたとあります。

この伝承は「**桜井の別れ**」として後世の人々に広く知られ、絵や詩、歌の題材として多く取り上げられました。

史跡桜井駅跡は、明治期から昭和の戦前期にかけて整備され、石碑の建立や敷地拡張、記念館の建設（旧・麗天館、現・町立歴史文化資料館）などが行われました。大正10年（1921）には国史跡に指定されています。JR島本駅前にある史跡公園には英国公使ハリー・S・パークスの碑文が刻まれた「楠公父子訣児之處」碑や楠公子別れの石像など、多くの石碑が建ち並び、クスノキが生い茂っています。

※南朝での年号。北朝では建武3年

楠公子別れの石像

平安時代

平安時代、都の外港・山崎の津や、山陽道（西国街道）により、この地域は京と西国を結ぶ交通の要衝としてにぎわいました。

山崎には、古代の関所（山崎の関）が廃された後、官営の宿泊施設「**関戸院**」（関大明神社）が設けられ、貴族や官人はここでもてなしを受け、見送りの人との別れを惜しみました。

都に近く、風光明媚なこの地は「**水生野**」（水無瀬野）と呼ばれ、天皇や貴族がたびたび訪れ、狩りをしたり、歌を詠まれたりして、時を過ごされました。

桓武天皇や**嵯峨天皇**は遊猟を好み、文徳天皇の第一皇子・**惟喬親王**は離宮を築いたという記述が『伊勢物語』に見られます。近年、広瀬地区で発掘された平安時代前期の建物群は、惟喬親王の離宮跡の可能性があります。

関大明神社

鎌倉時代

鎌倉時代、**後鳥羽上皇**はこの地を愛し、正治元年（1199）に**水無瀬離宮**（**水無瀬殿**）を造営し、たびたび御幸されました。離宮は建保4年（1216）の洪水で転倒流失しましたが、翌年には丘陵上に再建されたといいます（藤原定家『明月記』より）。

承久の変に敗れて隠岐（島根県）に移られ、その地で崩御された上皇の遺言（国宝・後鳥羽天皇宸翰御手印置文）に基づき、上皇に仕えていた**水無瀬信成・親成**の父子が離宮跡に御影堂を建て、上皇の肖像画（国宝・紙本著色 後鳥羽天皇像）などを安置して菩提を弔ったのが**水無瀬神宮**の始まりです。

近年、水無瀬離宮に関連すると考えられる建物跡が広瀬地区で見つかり、また、桜井地区でも庭園施設と考えられる遺構が見つかっています。（平成26年発見の庭園遺構は、町立歴史文化資料館に移築・復元）

紙本著色 後鳥羽天皇像（複製 町立歴史文化資料館 所蔵）

室町時代～安土桃山時代

室町時代、俳諧の祖といわれる**山崎宗鑑**は山崎の地に住み、町内には屋敷跡と伝わる旧家があります。応仁の乱以降、京へ向かう要衝にあったこの地域はたびたび争乱の舞台となりました。

天正10年（1582）、**明智光秀**と**羽柴秀吉**が戦った「**山崎の合戦**」の前日、秀吉方の先鋒・**高山右近**（高槻城主）は、山崎に着陣し、山崎宿の関門を閉じて一切の通行を禁止しました。

合戦の勝利後、秀吉は高浜村に蔵米の倉庫を置き、朝鮮出兵にあたって、山崎橋をかけました。

この頃の水無瀬家13代目**兼成**は、能筆家として知られ、正親町天皇の勅命によって将棋駒の銘を書いたのが「**水無瀬駒**」の始まりとされています。

兼成が書いた駒は、今も水無瀬神宮に残り、町指定文化財第1号となりました。

水無瀬駒（写真は水無瀬神宮 所蔵、 複製 町立歴史文化資料館 所蔵）

江戸時代

江戸時代、島本は7か村（大沢・尺代・山崎・東大寺・広瀬・桜井・高浜）に分かれ、所領関係では大名領、幕府領、所司代領、旗本領、公家領、寺社領などに細分化されていました（石高は全体で約2千4百～2千8百石）。

陸路（西国街道）、水路（淀川舟運）による交通の要衝として栄え、町域内には淀川対岸（橋本・樟葉）への渡船場（渡し）が3か所ありました（**山崎の渡し・広瀬の渡し・高浜の渡し**）。

桜井では、天明2年（1782）から陶器製造が始まり、**桜井焼**、**楠公焼**などと呼ばれ、大正時代まで続きました。

幕末の動乱期、島本付近も巻き込んだ**鳥羽伏見の戦い**（広瀬の民家に落下した砲弾を町立歴史文化資料館に展示）を経て、明治時代を迎えます。

高浜で使われていた舟

島本町の指定文化財

島本町文化財保護条例

平成20年7月1日に施行しました。

この条例は、町の重要な文化財を指定することで、貴重な財産として保存・保全し、町の文化の向上と発展に活用することを主な目的としています。

文化財保護審議会も発足し現在は、第7号までの町指定文化財を指定しています。

第１号（平成 21 年４月 14 日　指定）

名称：水無瀬駒　関連資料
所蔵：水無瀬神宮（後鳥羽･土御門･順徳天皇を祭る）
時代：安土桃山時代
品目：小将棋（漆書・八十二才銘）
　　中将棋（墨書・八十六才銘）
　　中将棋（漆書・残欠４枚）
　　象戯圖、将棊馬日記

〇水無瀬駒は水無瀬家で作られた将棋駒の呼び方です。公家で能筆家の水無瀬兼成は駒に文字を書き、89 歳で亡くなるまでに 700 組以上もの駒を制作しました。

第２号（平成 22 年４月５日　指定）

名称：神像（伝　聖徳太子七歳像）
所蔵：若山神社（大宝元年（７０１）創建と伝わる。氏地は東大寺･広瀬･桜井･神内）
時代：平安時代後期
法量・品質・形状：35.8 ㎝、ヒノキ材、一木造り

〇簡素な造りで、首をすくめた拱手の姿勢や、大振りの衣文は平安時代の特徴が感じられます。
町の最古級の神像です（大阪市立美術館に寄託）。

第３号（平成 23 年４月１日　指定）

名称：宝城庵　薬師如来立像
所蔵：宝城庵（桜井３丁目、本尊は聖観世音菩薩像）
時代：平安時代後期
法量・品質・形状：96.5 ㎝、ヒノキ材、一木造り

〇薬師堂の本尊で、左手と共彫りの薬壷を持っています。保存状態も良好であることも賞されます。

第４号（平成 24 年４月１日　指定）

名称：勝幡寺　薬師如来立像
所蔵：勝幡寺（山崎４丁目、本尊は薬師如来立像）
時代：鎌倉時代
法量・品質・形状：150.1 ㎝、ヒノキ材、割りはぎ造り

〇縁起によれば、行基が夜ごと巨木の空洞から発する光を見て、老樹を伐り、牛頭天王の本地仏である薬師如来を彫って洞内に安置したことから「洞薬師」とも呼ばれています。
穏やかな中に厳しさを感じさせる表情や、左袖外側に見られる直線的な衣文表現などから、鎌倉時代に入る頃の作と推定されます。

第５号（平成 26 年４月１日　指定）

名称：勝幡寺　元三大師みくじ関係資料 一式
所蔵：勝幡寺
時代：江戸時代
品目：みくじ箋の版木、みくじ箱、みくじ竹、みくじ箪笥

〇魔除けで信仰を集めた良源（元三大師）の絵や大吉、小吉などの運勢の吉凶、説明が彫られています。

第６号（平成 27 年４月１日　指定）

名称：須恵器　大甕
所蔵：島本町（町立歴史文化資料館で常設展示）
時代：奈良時代末期から平安時代初頭
法量：口径 52.6 ㎝、器高 105.0 ㎝
容量：522.6 ℓ

〇平成６年に淀川中洲で埋まった状態で発見されました。古代の都への交通や運搬経路を知り、都との関連の深い本町の歴史を知る上で、重要な考古資料です。

曳馬図

曳馬図

第７号（平成 30 年１月 15 日　指定）

名称：若山神社　絵馬
所蔵：若山神社
時代：江戸時代
品目：曳馬図、猿猴乗馬図、竹虎図

〇いずれも江戸時代のもので、制作者や願主が書き記されており、当時の人々の厚い信仰と願いが推量されます。

発掘調査のあゆみ

平成元年、初めて町教育委員会が主体となる埋蔵文化財発掘調査が行われました。それ以降、様々な遺跡が確認されてきました。

平成20年に施行された島本町文化財保護条例では、埋蔵文化財の包蔵が周知されている土地以外においても掘削を行う場合は、教育委員会と協議しなければならない旨が示されています。

この条項によって、新しい遺跡の発見につながり、本町が歴史の上で、重要な場所であったことがわかってきました。

平成元年（広瀬）

町教育委員会が主体となった初めての埋蔵文化財発掘調査が行われ、奈良東大寺所領水無瀬荘園の倉庫跡ではないかと考えられる柱穴が見つかりました。

広瀬遺跡　建物跡

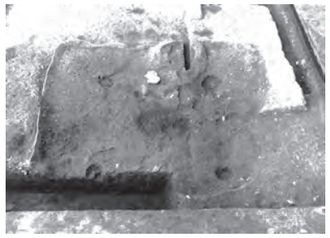
平成13年（山崎）

近世期と思われる石積みの施設（４段を確認）が見つかりました。
地下式貯蔵庫か、あるいは護岸の一部ではないかと考えられています。
見つかった土器の中には、輸入陶磁器類が含まれており、地域の繁栄ぶりがうかがわれます。

山崎東遺跡　地下貯蔵庫？

平成15年（東大寺）

奈良時代の竪穴式建物跡が1棟、見つかっています。住居跡からは瓦が見つかっており、近くの鈴谷瓦窯跡から見つかった瓦と制作方法がよく似ていました。このことから、瓦づくりに関わった人々が使用した施設ではないかと考えられました。



御所ノ平遺跡　竪穴式建物跡

平成17年（桜井）

ＪＲ「島本」駅の整備に伴う調査では、中世の大型柱列や大量の素焼き皿が、埋められた状態で見つかっています。
また、複数の井戸も見つかっており、この辺りが人々の水源地として適した地域であったことが分かりました。

桜井駅跡遺跡　全景

平成22年（広瀬）

町内で初めて、水無瀬離宮に関係する可能性が高い礎石建物跡や石敷の溝が見つかりました。また出土品には、軒瓦や輸入陶磁器、飾り金具と見られる金属製品があります。
現地説明会には、全国から多くの人が訪れました。

現地説明会風景

広瀬遺跡　建物跡全景

軒丸瓦

平成24年（広瀬）

西国街道沿いの調査地では、町内で初めて山陽道（古代から中世の幹線道路）と考えられる、小石敷路面をもつ道路の跡が見つかりました。
山陽道は、現在の西国街道をほぼ並走して、現在に至っていると言われています。

広瀬遺跡　道路跡

平成24年（広瀬）

平安時代の建物跡群７棟が見つかりました。出土した土器の中には緑釉陶器や灰釉陶器など、釉薬が施された焼物があり『伊勢物語』に登場する惟喬親王の水無瀬離宮跡の可能性があります。

広瀬遺跡　建物群跡

平成25年（広瀬）

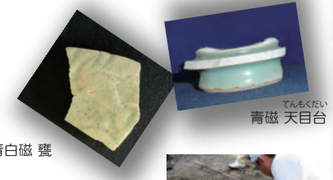
縄文時代晩期の竪穴式建物跡が１棟見つかりました。
縄文土器やたくさんの石器類（やじり、すり石、たたき石など）が出土しており、それらの中には未製品のものもあり、石器の工房跡と考えられます。

見つかった石器類

広瀬遺跡　竪穴式建物跡

平成26年（桜井）

『明月記』（藤原定家）の一文を裏付ける庭園遺構が見つかりました。この庭園跡は、洪水で転倒流失した後に、山上に建て替えられた水無瀬離宮の関連施設と考えられます。水無瀬離宮の関連施設と考えられる遺構としては、町内で２例目の発見です。
庭園の遺構は町立歴史文化資料館に移築・復元されています。



青白磁 甕

青磁 天目台

復元作業

西浦門前遺跡　庭園跡

令和２年（桜井）

町内で３例目となる水無瀬離宮に関連する、あるいは後鳥羽上皇に近しい皇族や貴族が関係すると思われる池泉跡が見つかりました。
池泉跡の底部には、青色を基調とした、こぶし大の石が敷かれています。

現地説明会風景

尾山遺跡　池泉跡